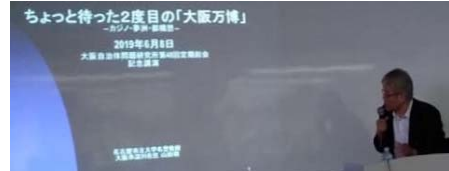


## ちょっと待った2度目の「大阪万博」 —カジノ・夢洲・都構想—

6月8日午後、エルおおさか大会議室で開かれた大阪自治体問題研究所第48回定期総会で記念講演した。まさに記念に残る講演である。



大阪に来て、研究所の皆さんに万博について語りたかったので、力を入れ準備してきた。A4で12枚の資料を事前に送った。当日は早めに行き、パワーポイントがうまくいくか確かめた。準備万端さて？

パワーのあるパワーポイントを立ち上げてもらい話し始めた。ふとスライドを見ると、自己紹介に「名古屋市立大名誉教授 大阪市淀川在住」とあった。これでスルーすればよかったが、つい「淀川区」の間違いです、と言ってしまった。するーと怪訝な表情のあと、笑いが起きた。それにのって、自宅は淀川より神崎川に近いです、などと余計なことも口走した。

ここからキンチョー感もとれて、現役時代の「講義モード」に戻ってきた。久しぶりなので、溜まっていたダジャレをすこし「連発」してしまった。講演後の懇親会の場で、力を入れた講演よりも、ダジャレに話が集中してしまい、「吉本よりも、面白かった？」という声も。それは当然である。最近の吉本は、安倍首相にすり寄り、忖度ばかりしてなんだか面白くない。

つい話がそれてしまったが、講演のポイント、「話のはじめとおわり」だけでも掲載しておきたい。これが言いたかったことだ。

### 報告要旨(話のはじめとおわり)

2度目の大阪万博「決定」から、半年余りが経つ。市民のなかで万博は忘れられ、あの時の熱気は、とうに冷めてしまったようだ。流れるニュースは「維新政治」、なかでも「都」構想という名の大阪市潰しの政争ばかり。でも、市民の知らないうちに、万博計画は着々と練られている。

2025年日本国際博覧会協会(万博協会)がことし1月末に立ち上がり、3月末にWEBサイトも開設された。400億円超とされる会場建設費の経済界の負担も、関西企業などが200億円強を負担などと報じられている。会場予定地「夢洲」の都市計画決定などのパブリックコメントも実施され、埋立も先行して進められている。先日、夢洲に「初上陸」して、自然環境とリスクを実感できた。

大阪・関西万博は、今どのような段階なのだろうか。昨年11月23日の深夜、パリで開かれたBIE(博覧会国際事務局)総会で2025年国際博覧会の日本・大阪への誘致が決まった。万博協会などで作業が進められているが、基本計画などを策定してBIEに登録

申請し、総会で承認を受けなくてはならない。BIE 登録までは、大阪万博はまだ「仮免許」の段階であり、開催までの前途は多難だ。

今日、皆さんに話したいのは、大阪万博に立ちはだかる厚い「壁」である。万博について「夢」は多く語られるが、開催に向けての課題は、無視ないし先送りされがちである。大阪万博をめぐる現実をシビアに直視することが大切だ。

「ちょっと待った 2 度目の大阪万博」、今からでも遅くはない。長年にわたり、2005 年の愛知万博をウォッチしてきた一人として、万博協会や大阪府市は愛知万博の経験に学べと言いたい。

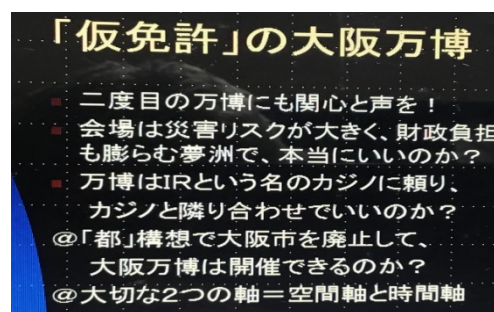
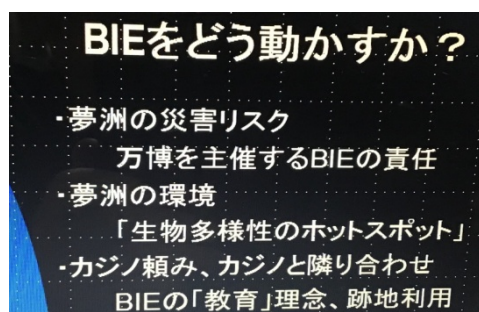
とりわけ万博会場をめぐる、大阪万博は愛知万博と同じような問題に直面している。愛知万博は会場を二転三転させ、なんとか開催にこぎつけた。当初は瀬戸市の「海上(かいしょ)の森」という里山が会場予定地だった。万博跡地には新住宅市街地開発事業、「新住」事業というニュータウン開発が計画されていた。緑豊かな里山を破壊する万博に国内外から批判が高まり、BIE も跡地開発などに警告を発することになる。

愛知万博は「新住」事業と「心中」する寸前まで追い込まれた。それで BIE への登録を延期して、環境団体を含めた万博検討会議での議論を踏まえ、メイン会場を愛知青少年公園に変更した。

大阪万博の会場予定地は、大阪湾の人工島・夢洲。ここは自然環境への影響だけでなく、防災・安全面で重大なリスクを抱えている。それと「IR」という名のカジノ=賭博場と隣り合わせ、カジノ頼みのアクセス整備だ。万博の跡地も注目される。

万博会場を夢洲にこだわり続けると、愛知万博のように「待った」がかかるのではないか。「都」構想=大阪市廃止、その「Xデー」も、万博開催に足かせになるだろう。夢洲を会場にする「カジノ万博」に警鐘を鳴らしたい。

写真は講演当日の朝、パワーポイントに付け加えたスライドである。とくに言いたかったことをスライドにまとめた。これで講演にパワーがついたと思うのだが。



(2019年6月23日)